

# グローバルコースオンライン説明会 質疑応答集

開催：2025年5月17日（土）

## 【入試関係】

- Q. 国際選抜入試の面接は何語で行われるのでしょうか。
- A. 英語で行われます。
- Q. A0入試の場合、小論文とTOEICどちらの方が大きく合否に影響するのでしょうか。
- A. 英語の資格試験は出願要件です。出願要件が満たされていることを前提に、書類および面接により合否を判定します。
- Q. 国際選抜入試で入学する学生の方々の入学時のTOFELやIELTSのスコアはどのくらいでしょうか。
- A. 出願要件を満たすスコアです。

## 【授業関連】

- Q. グローバルコースでは、どのようなゼミが展開されていますか。
- A. 憲法、会社法、国際人権法、ビジネス系、経済・経営系など、多岐にわたる分野のゼミが2年次から展開されます。日本の法と社会というような広い視点から学ぶものもあれば、契約法に関連する問題を学ぶものもあります。
- Q. 授業内でペーパーテストはありますか。
- A. あります。いわゆる大学全体で行われる定期試験とは別に、日々の授業の中でmicro examのような形で頻繁に行われています。

## 【Gコース生への質問】 ※参加学生より回答

- Q. 授業で学んだことを大学外でアウトプットする機会はありますか。
- A. 授業は先生や周りとのコミュニケーションを取りながら進行するため、サークル内や学外においても、仲間同士でコミュニケーションをとりつつ、学んだことを使って物事を考えていく、ということができていると思います。
- Q. Gコースを選んだ理由を教えてください。

- A. 日本の大学の中では、英語でビジネス法が学べるのは立教のGコースしかありません。将来、起業することや国際取引を扱う仕事に就くことを視野に入れた場合に、Gコースでの学びに強い関心を持ちました。
- Q. 高校在学時に、意識的に英検やTOEFL等の英語の資格をとりましたか。あるいは帰国子女で英語が得意だったのでしょうか。
- A. 帰国子女ではありませんでした。英検よりIELTSやTOEFLの試験を受けたほうが実践的な英語が身につくと感じています。IELTSの点数を上げることは容易ではありませんが、その勉強を通じて英語力が上がったと思います。
- Q. 大学生生活のモチベーションを教えてください。
- A. 近い将来起業する、という目標の達成に向けて、日々トライアンドエラーを繰り返しています。誰も知識のない経営者に着いて行こうとは思いません。Gコースの教授の方々のように、知識が豊富で何を聞いても答えてくれるような人に憧れています。人生は一度で、この世の中にはたくさんの学ぶことがあり、自分自身の人生の道幅を狭めたくはありません。自分は少しでも多くのことを知って世界に貢献し、後悔のない人生を歩みたいという志が、大学生生活のモチベーションになっています。

## 【その他】

- Q. 当日配布資料「カリキュラム内容・まとめ」頁より、「法的素養」と「真の法的素養」には、どのような違いがあるのでしょうか。
- A. 法学部の授業は、縦割りに分類されたひとつひとつの科目を勉強することで体系的な理解が得られるようになっており、「法的な素養」を身に着けることができます。その上で、実践的な場において、また人と人とのコミュニケーションの中でこれらの知識がどのように機能するかを学びとることが「真の法的素養」だと考えます。Gコースでなくとも、ゼミの中でディスカッションや交渉を通じて実践的な考え方を身に着ける場はありますが、Gコースでは、全ての授業が豊富なコミュニケーションの中で進められるため、より実践的な「真の法的素養」を感じ取っていただけるはずです。
- Q. 海外の大学に交換留学で留学する割合はどのくらいですか？また、留学先はどのあたりの地域でしょうか。
- A. 割合は年により異なるため一概には言えませんが、最近では大学間協定校・学部間協定校に留学する法学部生はほぼ全員がグローバルコース生です。また協定校以外の海外プログラムに参加する学生まで含めれば、何らかの「留学」に挑戦するグローバルコース生はかなりの割合に上ります。

以上